

NPO（ボランティア団体・市民活動団体等）からの協働事業等提案  
「百代郷 夢びと 山びと この指とまれ」第2回検討会 議事概要

日 時：平成20年9月3日（水）14：00～16：30

場 所：県尾鷲庁舎2階202会議室

出席者：（提案者）特定非営利活動法人海虹路 池田、宮崎、磯崎

尾鷲自然研究会 七見

（県関係室）環境森林部自然環境室 南

環境森林部森林・林業経営室 野村（尾鷲市駐在）

（サポート委員）みえ防災市民会議 山本

（協働事業制度担当室）生活・文化部男女共同参画・NPO室 辻

尾鷲県民センター県民防災室 梅谷

（オブザーバー）熊野県民センター県民防災室 福本

## 1. 前回の検討会から本日までの尾鷲での動きについて

- ・ 「体験」は植樹と手入れ、「学習」は学校や公民館で環境を学んでもらう、ということセットで繰り返し、住民に意識啓発を行いながら、将来に向けてしくみを作ることを目指す、ということで、7月8月は学校まわりと助成金の申請を中心に活動した。
- ・ 10月2日に輪内中において、学校全体で環境教育の時間をとってもらえることとなった。そこで環境の話をした上で、11月1日の植樹への参加PRをする。
- ・ 『継続』していく上で、例えば学校にクラブを作ってもらえないかという話もしたが、小規模校では、新たにクラブを作るのは難しい状況である。
- ・ その他の学校についても協力を依頼中。地域の公民館活動と一緒に地域に学ぶことを行っている学校もあり、その取組と連携するなども考えられる。
- ・ 学校による学習会への取組については、今年は無理でも、来年度にむけて検討してもらえれば、とも考えている。9月・10月は運動会等多くの行事と重なるため、来年度はもっと早い時期に出来ればとも思っている。
- ・ 学校へ説明にあがるにあたってチラシを作成。参加募集用のチラシも作成中である。
- ・ 説明にまわる中で、地元できちんとした形で植樹をしようという働きかけは初めてではないか、今まで知っている人だけで行ったりしていたものはあったが、きちんとした形で行うことに意味があるのではないか、という声も聞いた。
- ・ 確認事項として、以前、曾根地区の区有林で、市を通して森林組合が植樹を行ったことがあるが、その場所（区有林全体20haのうちの1ha）と、残り19haの中から借りた今回の植樹計画場所とは同じ区有林内だが違う。また森林組合は事業体として木を斡旋して植えただけで、その後の管理までは行っていない。管理を行っている区長から了承を得ており、森林組合との調整は必要ない。

## 2 今後の取組について

9月・10月・11月の実施事業

- ・ 里地里山補助金への申請の他、新たに現在2つの助成金に申請を行っており、その事業を今後実施する予定。(NPO法人等地域材利用推進普及活動助成金((財)日本木材総合情報センター)と、MPドリーム助成金(三重県遊技業福祉連合会)に申請中。)
- ・ 既に申請している里地里山補助事業としては、11月1日に植樹を行う。(苗を300本用意し、ベンチ・橋を設置する)
- ・ 今年度の植樹は11月の1回のみ。2回目の時期について、子ども達に参加してもらおうと考え、3月は卒業、4月は入学したばかりで難しく、4月1日以降で再考したい。
- ・ MPドリーム助成事業としては、通常の活動として実施している体験教室事業の実施に助成を頂きたいと考えている。(木工教室で使用する道具類と、山で体験するため活用する道具類を購入を、来年6月までに実施予定。)
- ・ 木づかい助成事業としては、学習事業の実施にあたり助成を頂きたいと考えている。(11月中旬に講師に招いての講演会の実施と、11月~11月に熊野古道センターだけでなく、郵便局などいろんなところで木工体験教室の実施を予定。)この事業は、来年からの協働事業の実施に入るまでに、その基盤づくりとして今年度中に行う。
- ・ 各種助成申請にあたっては、助成対象・内容について各々整理を行った上で実施している。

#### 植樹事業の実施について

##### (準備)

- ・ 曽根区長とは、植樹の下準備(下草刈り、ベンチや水路に渡す丸太橋の設置、炊き出し等イベントの下準備)にかかる打ち合わせを、この第2回検討会が終わった後に行う。
- ・ 11月1日の呼びかけの対象は、まずは地域中心、それから広げていく。
- ・ 尾鷲市役所や森林組合に、特別にはアプローチしていないが、地元の企業等として郵便局には行った。教育長にも参加をお願いしてみる。
- ・ 団体が主となり植樹をこのような形で行ったことが無いので、まずは経験をしたい。そこからが出発と考えている。

##### (安全面の確保)

- ・ 緊急対応(問題発生時の体制)の整理(マニュアルの作成等)を行う必要がある。
- ・ 小学生には父兄同伴、参加者は全員イベント保険に加入、一番近い賀田の診療所にも対応をお願いしておく。

##### (定員)

- ・ 募集人員は、スタッフや道具類の準備をする上で目安として100人とする。(最小30人くらいいれば、植えることはできる。)
- ・ 100人として30チームくらいが動くと見込めば、30余裕を見て40セット植樹にかかる道具も準備となる。企業の森の例では、参加者約100人に、スタ

ップは10～15人。

- ・ 植樹の申し込みを締め切る10月15日に、正式に参加人数が固まる。主な対象となる地元の子供達の人数は、輪内中71人、同校区内小学校5・6年生16人の計87人。植樹を行う土曜日午前は、輪内中は全員部活の時間で学校には来ているが、部活動との兼ね合いが難しい。子供達や先生と、学習会の時にどれだけ心を通わせられるかがポイントとなる。
- ・ 地域の学校からは学校単位で申し込んでもらい、人数把握をしてもらう。
- ・ 地域外のこどもの参加については、親から直接申し込んでもらう。
- ・ 個人的にはスタッフとしての参加を声かけしているが、地域(区、婦人部)からどれだけの人に参加してくれるかは、今後の区長さんとの話し合いによる。

#### (植樹内容)

- ・ 苗は300本用意。ヒノキ100本、クヌギ100本、桜等100本。植樹した木それぞれに、植樹した人のプレートをつける。
- ・ 第1回目の植樹はイベント的に楽しくやりたい。一番大切なのは地盤づくり。まずは地元の人たちとの人間関係・信頼関係をつくり、充実させたい。

#### (スケジュール)

- ・ 最初に30分学習、植樹に1時間、30分歓談(炊き出し)計10時から12時までの2時間というスケジュール。
- ・ 100人集まったら、一人3本植樹することになる。1本植えるのにかかるのは5分くらいで、植樹場所まであがっていくのに10分みても、植樹自体はすぐに終了するので、現在のスケジュールで問題はないと考える。終了時刻は汽車の時間にあわせた。

#### (植樹する森の名称)

- ・ 『アスカの森』という名前を付けた。山に入る時には地元の人がお参りする曾根地区にある神社(飛鳥神社)の名前に由来する。土地の名前ではない。

#### (しくみづくり)

- ・ 学習会・体験をシステム作りへどう繋げるかについては、手探り状態である。助成金も活用し、いろいろやってみる中で、要らないものはそぎ落とし、要るものだけが残って、その積み重ねから何か見えてくるのではないかと考えている。
- ・ システム作りというより、文化の振興なので、地域の文化みたいなものを作っていくということである。協議会があって等というシステムのなものというより、地域の人達の気持ち・行動が変わっていくことが目指すところである。
- ・ 活動の中心を、海虹路さんから地域に移し、いつまでに地域で行えるようになるかを考えながら行うことは重要。今地域にある団体の人達に、少しずつ分担して担ってってもらえれば、と考えている。

#### (参加費)

- ・ 参加費無料では事業は継続しない。参加費をもらうとしても、その使徒はイベント保険料(一人1000円)・プレート代など説明はつく。地域で継続してもらう時にもお金をとってやっていいと常識として伝えれば、継続しやすいのではないか。無料にしたければ、例えばこども達の文化育成なので、子どもは無料にして、大人からは参加費をとるなど。参加しようという人は案外お金を払ってくれる。参加費がかかるならこないという人は、タダでもこない。おもしろいと思ってくれる人はお金を出してでも取り組んでくれる。
- ・ 保険は本来自分が怪我をしないように、自分でかけるべきもの。参加費として出した額より、参加した結果もらったもの(炊き出し、プレート等)の方が多い、というのはいいが、タダというのと、お金を払うのとは違う。これからはお金を払ってでも参加したいものでないと活動として残っていかない。
- ・ 環境を守るにはお金が必要だと知ってもらう機会にもなる。
- ・ 第1回目からお金を負担してもらうかどうか非常に悩んだが、学校・こども達为中心なので、1回目だけは無料としたい。
- ・ 1回目を実施する時に、草刈りと植樹は次回いつ頃行うので来て下さいね、今度からは参加費もいります、という告知パンフレットを渡せたらと考えている。
- ・ チラシには、ただ無料と書くのではなく、今回だけは何々助成金により参加費は無料、とか、次回からもらうこととなります、といった予告を入れておく。
- ・ 遠くの人などからは、記念植樹としてプレート一つにつき1000円とかお金を払ってもらって集めてはどうか。(植樹した写真等を送って結果を報告する。)
- ・ 記念植樹は良い案で、第2段階で行いたい。第1段階はまず地域を固める。第2段階では記念植樹などいろいろ出来るだろう。活動を広げる上で、資金を集めながら地域でやっていけるという見本をみせれば、地域の人も一生懸命になるのではないか。
- ・ もう一つのしかけとして、サカキなど手入れをすれば売れる種類の木も植えたい。それを自分達のお金になるようにすれば、売ろうと思えば世話をしないときれいな木にならないため、地域の人も手入れをしてくれるのではないか。

#### (課題)

- ・ 学校との関係がもっとうまくいけばいいと思っている。交流がまだ少ない。
- ・ 学校関係には「生きる力」を具現化するような取組として話をしてみてはどうか。こういうことは学校だけでは学べない。

#### (チラシの修正個所の確認)

- ・ 参加費、定員、問い合わせ先、注意事項、主催者等の書き方の修正。
- ・ 持ち物として水はいらない。広葉樹なので無くても根付くと思う。植樹に必要な道具は用意する。スコップではなく、とぐわが必要。自ら持ってきてくれる人もいだろう。
- ・ 地域の炊き出しをしてもらうにあたり、今回参加者には箸、汁碗を持ってきてもらうようにした。エコイベントのためなど注釈を書いておく。一応忘れた人用の汁碗等は準備する。

- ・ 申し込み方法は電話を基本とするなら、申込書の様式は必要はない。FAXで受け付けるなら様式はあった方がいいが、「受け付けた」という連絡は必要。当日の緊急連絡・問い合わせ先は伝えた方がいい。
- ・ チラシも学校への説明用は文面が固かったが、一般の参加募集用はもっと柔らかいものにしていく。
- ・ チラシに公衆トイレの場所も記入しているが、公衆トイレまでは徒歩5分、車なら2分でいけるので、仮設トイレは設置せず、公衆トイレを利用する。
- ・ 大雨の時の中止の連絡などは、手分けして参加者に電話する予定。
- ・ 集合場所も、地図だけではわからないと思われるので、植樹会当日は、要所に看板を立てる、曲がり角に人が立つ等する必要がある。

#### (広報)

- ・ 県の記者クラブへ情報提供(本庁・尾鷲)、HPへの掲載、ボランティアニュース10月号に記事を出す、等を行う。

#### 来年度の事業実施にむけて

- ・ 来年度の協働事業として、学習会と植樹活動以外にやりたいこととしては、何年か事業が継続できるなら、成果を見るという意味で生物調査など環境調査もやればいいのか。まず今の何にもない状態で調べておけば、森づくりをすることでこんなに生物が増えたというのがわかる。
- ・ 生物調査はいろんな学校で既に取り組んでいる例もあり、実施にあたっては講師を環境学習センターから出前講座として呼ぶなどやり方はいろいろある。
- ・ 事業はH21・H22の2年間を予定している。協働事業としてこういう形で検討会の場をもつのは、この1年で終わる。そこで来年3月までに今後の目途も立て、翌年度につなげていきたいと考える。

### 3. 第3回検討会の日程

- ・ 10月23日(木)9:00から、場所は尾鷲庁舎と現地で行う。
- ・ 9:00 尾鷲庁舎集合 公用車に乗り合わせて現地へ(移動約30分)
- ・ 9:30~ 現地で場所を見て、その後曾根公民館で打ち合わせ
- ・ 尾鷲庁舎へ戻り、12:00頃終了とする。
- ・ 第3回検討会は、11月1日の植樹に向け、募集も締め切り人数も確定したところで、これまでの準備で足りないところはないかを確認しあう。

予定については後日変更し、9:00~尾鷲庁舎にて打ち合わせを行い、終了後現地へ向かうこととする。